

するあらゆる企てに對してなし來つた首尾よき反抗は、資本主義強國側に於ける、戰爭によつてソヴェット共和國を征服せんとする新計畫を可能ならしめる。

英米のブルジョア階級は、若し賠償問題が一時解決され得るならば、此の任務をドイツのブルジョア階級に委任したいと考へるであらう。然しフランスのブルジョア階級は、頗るドイツの軍隊を恐れてゐる。これが協同的進撃を妨げる。

三〇 然しながら資本主義の恐慌は愈々深刻になつて、協商國のブルジョア階級は、ソヴェット・ロシアに對するか又は協商列強の間に於けるか其のいづれかの新戰爭の外には、革命運動を鎮壓する方法を見出し得なくなるかも知れぬ。平和の保證にも拘らず、ワシントン條約にも拘らず、戰爭の準備は加速度を以て進行しつゝある。殺戮の道具は、最大努力を以て、陸上、海上、海底、空中の戰爭のために、毒瓦斯を以て、また病菌を以て準備されつゝある。國際聯盟にも拘らず、協商國及び不斷の平和の保證にも拘らず、イギリスに於ける労働黨政府及びフランスに於ける左黨聯合にも拘らず、萬國のブルジョア階級は休みなく其の戰爭のための準備を續行しつゝある。

(七) 階級對立の増大

三一 資本の聚積及び集中とカルテル、トラスト及び聯合の形成との過程は、今日の資本主義没落期に於いて、一層急速な歩調で進行しつゝある。多くの國々に於いて實質の富は減少しつゝあるが、最も有力な資本家によつて獲得される分前は絶えず増加しつゝある。これらの聯合を支配する指導的資本家の小集團と中小ブルジョア階級との間の間隙は、層一層廣くなりつゝある。見掛上獨立せる小ブルジョア階級の愈々多くの部分が、資本主義による搾取の状態に陥りつゝある。

三二 貨幣相場の下落しつゝある國々では、小ブルジョア階級は、大資本家に都合よく、その財産を失つた。戰時公債や、國債又は産業債券に投せられた資本は、皆無となつた。貯蓄銀行預金や、生命保険や、養老債券は、すべて通貨膨脹によつて消去つ

た。

小商業ブルジョアジーの收奪は、膨脹期に於いてこれらの階級は常に其の商品を仕入換の費用よりも廉い値段で賣却し、實際には此の見掛上の致富のために零落させられたといふ事實によつて完成された。

自由職業者、官吏、及び事務員階級の収入は、戦前の水準以下に減少し、そしてプロレタリアートのそれに近づいて来た。

以前はより高き地位にあり、そして或る程度まで労働を免れてゐた全層が、かやうにして地位を引下げされた。これらからファスシスト運動は人員を補充されると同時に、彼等の一部は革命的プロレタリアの隊伍に参加する。

三三 農業恐慌は數百千の農業者及び農民を零落させ、彼等を其の債權者に對する最も壓伏的な奴隸たらしめるか、又は彼等をプロレタリアートの隊伍に陥らしめた。恐慌は労働農民の同情を喚起して、資本主義及び大地主に對するプロレタリアートと

労働農民との闘争同盟の方へ向はせた。そしてそれは「勞農政府」の標語に於いて、其の政治的表現を見出してゐる。

三四 労働者階級に對する資本主義の攻勢は、あらゆる手段によつて繼續されつゝある。労働者大衆の實質賃銀は引下げられつゝあり、階級對立はかくして緊張される。それと同時に資本は職業に對して職業を對抗させ、不熟練労働者及び機械的労働者を犠牲にして労働貴族に利益を與へ、婦人及び小兒を犠牲にして男子に利益を與へようとし、かくして労働階級の協同的反抗を破壊しつゝある。

三五 都會の小ブルジョアジーの窮乏、農業恐慌が農民に齎らした激しい苦痛は、普通の状態に於いては支配階級の指導の下にある諸階級の間、動搖を起してゐる。此の動搖的氣分の多くの表現のうちに、ドイツに於ける「國民」運動の發展、フランスに於ける左黨聯合とイギリスに於ける労働黨の勝利とがある。プロレタリアートそれ自身に於いては、労働者中の最も階級意識ある部分による社會民主黨脱退及び其の共

産黨への加入が、階級闘争の緊張を表現するものである。アメリカへの移住に對する制限は、移住が從來ヨーロッパの資本主義に提供してゐた安全瓣を閉鎖して、ヨーロッパのプロレタリアートの間の革命的酵母を増加するものである。

(八) 豫想と任務

三六 資本主義の恐慌期は續く。アメリカに於ける俄景氣は孤立的現象に過ぎなかつた。恐慌の最も重要な局面は、ヨーロッパの大資本主義諸國に於ける慢性的産業恐慌と、全世界にわたる農業恐慌とである。

近き將來に於いて吾々は、その發端は既に認められるところの、アメリカに於ける恐慌期を加算しなければならぬ。ヨーロッパの産業に於ける慢性的恐慌は、若し専門家報告が眞面目に實施されることになつたなら、新しき急性恐慌に一變し、そしてそれは、吾々がこれまで考察した恐慌状態(即ち同時でないところの、ヨーロッパ諸國に於

ける俄景氣から恐慌への變轉)と相違して、同時に全ヨーロッパに擴がるであらう。

資本主義は戦後の恐慌から脱出して世界的好景氣の時期に近づきつゝあるといふ、社會民主黨の理論家ヒルファディングの見解は、無根據である。此の觀念はブルジョアジーの利益になる。それは労働階級の動搖的部門を共產主義的革命運動から遠ざけることを目的とするものである。

三七 近き將來に、プロレタリアートと資本主義との間には激烈な闘争が起るであらう。前者は單に資本の攻撃を防禦し得るのみならず、少くとも其の以前の地位を恢復するであらう。後者は資本主義の没落期に於いては、プロレタリアートの要求を満たし得ないであらう。彼等自身が激烈な恐慌に陥つてゐるところの小ブルジョアジー及び農民の大部分が、一階級として、ブルジョアジーのために信頼すべき援助を與へざる形勢の下に於いて、闘争は行はれるであらう。これらの階級の一部門は、ファシストの如く、ブルジョアジーの前衛を形成するであらうが、唯共產黨が其の擴大と集中とに

よつて経済的闘争を政治的闘争に轉化することに成功しきへすれば、これらの階級の
中層の政治的分裂は、プロレタリアートの闘争に大なる成功の機會を與へるであらう。

三八 資本主義に於ける現在の恐慌がブルジョアジの倒壊に導くか、又は新しくし
て持続的な其の階級支配の相對的安定に導くかは、飽くまで、恐慌期中に於いて産出
せらるべき革命的形勢を、共産黨が組織的に政治的に利用し得る地位にあるか否かに
懸つてゐる。階級支配は、革命的プロレタリアートによる決定的なる、執拗なる、自
己犠牲的なる攻撃なくして、決して自動的に瓦解するものではない。近き將來に於い
てプロレタリアートの有力な大衆運動が必ず起るであらう。現在の恐慌期に於ける闘
争は、プロレタリアートに對する國民黨及びファシスト黨の感化が打破される時、その
最重要部門に於けるプロレタリアートの多數が共産黨へかち得られる時、そして農業
恐慌の下に烈しく苦みつゝある勞働農民が地主及び資本家に對する闘争同盟に擧つて
引入られる時、初めて首尾よき權力闘争へと導かれ得るであらう。

(終)

大正十三年十二月五日印刷
大正十三年十二月十日發行

資本主義經濟の没落
一定價金一圓五十錢

譯者檢印

譯者 東京府下大森新井宿一〇二九 西 雅 雄
發行者 東京市神田區美土代町二ノ一 中 村 德 二郎
印刷者 東京市牛込區天神町二十六番地 野 吾 由 次 郎

發行所 東京市神田區 美土代町二ノ一 白 揚 社

振替東京二五四〇〇番

マックス・ヘーアー原著
西 雅 雄 譯

四六判 箱入
三 百 頁

マルクスの生涯と學說

定價壹圓八拾錢
送料拾七錢

本書は世界大戰以後急激に増加した獨逸マルクス主義文献中にあつて、最も光彩を有するもの一つである。ヘーゲル及リカルドに對するマルクスの思想關係、エンゲルスとの交り、ブルードレに對する論駁、共產黨宣言、インターナショナル、唯物史觀、階級闘争と無産階級獨裁、資本論勞働價值説と其の歸結等、マルクスの生涯及學說に於ける重要事實を僅々二百八十頁の中に、比類なき簡潔明快なる筆を以て壓縮描寫してある。震災後暫く絶版の所、今回原書最新版に依つて改譯新刊として出づ。

西 雅 雄 氏 著

(四六判 箱入)
布表紙三百五十頁

英國勞働黨發達史

(定價 貳圓)
送料 十六錢

英國は資本主義の祖國であると共に社會主義の祖國である。英國勞働黨の歴史は世界社會主義運動の一典型として何人も看過すべからざる所であるが、殊に勞働黨の政權掌握によつて將に平和の裡に革命を遂げんとする今日に於て特に注意すべきだ。本書はチャーチズムに筆を起して過去百年間の英國勞働階級運動を詳説して、勞働黨發達の背影を明かにし更に共產主義の立場から其の將來に論及したもので自由主義と勞働階級、勞働組合と政治運動直接行動と、議會政策の關係の如き重要項目に就いては記述最も詳細を極めて居る。著者の健筆は七箇日間の牢獄の苦を嘗めて一層の光を加へた。

高橋 龜吉 著

四六判箱入
四百二十頁

日本資本主義經濟の研究

定價 貳圓
送料 十七錢

純理にのみ即した此の種の幾多の文献とは全然異つて、本書は一々我經濟の實際を徹底的に調査研究し、之を基礎に論究された唯一の文献であり、斯學の革命的新著である。例へば我國現在の經濟的行詰は果して一時的な不景氣のみに原因するか、將又我資本主義經濟の根本的行詰りに基因するか、我各産業各事業現在の行詰は如何にして來り、如何にして打開さる可きか、之等の重大問題に答ふる爲、著者は經濟の各部門の實際につき、或は歴史的に、或は國際的に、或は資源的に一々詳細に研究し、殊に代表的産業に對しては詳細綿密に調査解剖しその取材の豊富豊切なる、調査研究の周到なる、理論整然として、實に著者の獨壇上である。然り本書に依つて始めて日本資本主義經濟の現在及將來に就て正當なる理解と判斷とを掴み得るものである。

高橋 龜吉 著

四六判箱入
四百頁

經濟學の實際知識

定價 金貳圓
送料 十二錢

社會問題勞働問題の根底に横はる、經濟問題の根本知識を明快直截に説いた。實に本書は一讀直に經濟界の種々相を顯微鏡下に見得るものである。今迄の經濟學は余りに技術的にのみ説明し、余りに斷片的にのみ經濟界を見たから實際問題に當面すると死物に陥つたが、著者は総合的に説き機能的に物を見たから、一々我々の實生活とピッタリ合ひ從來の經濟學に失望した人達も本書の前には始めて感謝することが出来る。

エリオット著
山川均譯

四六判箱入
紙數四百頁
布表百頁
紙

近代科學と唯物論

定價金貳圓五拾錢

送料金拾七錢

宇宙の本質は物であるか心であるか、物心の闘ひ唯物論と唯心論の争ひは希臘哲學以來の宿題であつて、今も尙ほ一切の思想問題の根底に横はる未決の疑問である。本書は先づ宇宙の無限に大なるものに對する現代科學の極致を究め、次に宇宙の無限に小なるものに就ての現代科學の知識を盡し、科學的機械觀の立場から生命説を論破し、唯心論を致命的に葬り去つたあとで、現代科學の結論たる唯物論の光によつて古來の物心對立の矛盾を照破した新見地を開いたものである。本書に於て唯心論は論破せられたのみならず初めて征服されたと云ふも過言でない。根底ある宇宙觀に立脚せる徹底した人生觀と社會觀を追求する讀者諸君は、本書によつて未發の新光に接せられることを疑はぬ。

535
70

終

